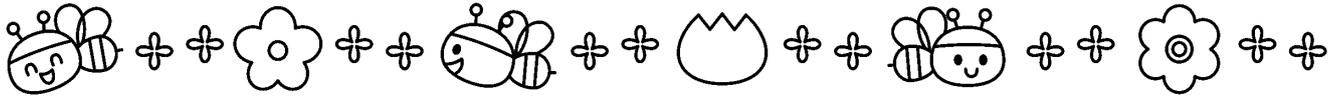


幼児教育センターだより



大田区教育委員会 幼児教育センター
(5744)1618

日の暮れるのが一段と早くなり、朝晩はすっかり冷え込むことが多くなりました。色づく木々が秋の深まりを感じさせる季節です。寒さに負けず外を走り回ることたちにとって、どんぐりや落ち葉など自然の恵みは宝物に見えているでしょう。

今回の幼児教育センターだよりでは、こどもたちの「言葉」についてお伝えします。



言葉による伝え合い

現在、幼稚園・保育園・認定こども園の各施設において、幼児教育の指針となっている各要領や指針の中には、卒園の時点で育ちつつあるこどもの姿を、10個の具体的な視点からとらえた「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が明記されています。その「10の姿」の1つに「言葉による伝え合い」という視点があります。

～「言葉による伝え合い」の視点～

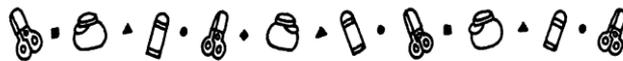
- ・ 保育者や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付ける。
- ・ 経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞くことで、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

言葉の獲得と成長

※これらはあくまで一般的な傾向であり、個々のこどもの発達には個人差があります。

人間のコミュニケーションの中心的なツールであり、豊かな心や感情を育む会話の基本が「言葉」です。こどもたちはどのように言葉を獲得して成長していくのでしょうか。

【言葉の獲得】



✿6か月頃

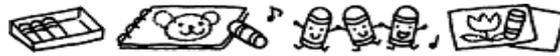
「あーあー」「うー」などの単純な音から、「だーだーだ」「なんなんなん」など、母音と子音の混じった「喃語」と呼ばれる発声をするようになります。まだ、言葉としての意味はありませんが感情などを表現する行動と言われています。

✿7か月～2歳頃

7か月頃から「指差し」も見られるようになります。言葉の前段階のコミュニケーションで「これをみるよ」「これがみたいよ」「これがほしいよ」など、大人と視線を共有することでコミュニケーションします。この時、「わんわんだね」「これはぶーぶだよ」などと、大人に話しかけてもらうことで「物」と「音」を結び付けて物の名前や簡単な言葉を身に付けていきます。

この頃になると、絵本を読んでもらい、声を出したり指をさして笑って大人の顔をのぞき込んだり、盛んにコミュニケーションをとるようになります。

【言葉と感情の成長】



☆2歳

大人を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむようになります。大人に話しかけられることを喜び、自分も同じ言葉を使ってみようとしみます。また、リズムのある言葉や繰り返しの言葉に興味を持ち自分でまねて言うようになります。

☆3歳

大人や友達の話すことを親しみをもって聞いたり、「困ったこと」や「してほしいこと」を言葉で伝えたりするようになり、身近な生活の中で必要な言葉に気づき、コミュニケーションに使ってみるようになります。絵本やお話の世界を理解するようになり、繰り返し見たり聞いたりを楽しみます。

☆4歳

大人や友達の話すことを親しみをもって聞き、生活や遊びに必要な言葉の意味が分かり、進んでコミュニケーションするようになります。絵本や歌の中で言葉の面白さに気づき、繰り返し声に出して楽しみ、お話の内容やストーリーに興味をもち、イメージを広げて楽しむようになります。

☆5歳

友達の言うことを受け入れたり、自分の思いを伝えたりしながら会話を楽しむようになります。相手にわかるように話し方や言葉を考えて伝えようとしたり、様々な体験を通してイメージを豊かにし、言葉で表現することを楽しめます。絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わったり自分で表現して言葉の面白さや美しさを味わうようになります。

「10の姿」に「伝え合い」とあるように、こどもたちの言葉は常に周りの大人や友達とのかかわり合いや伝え合い、コミュニケーションの中で成長していきます。大人がこどもたちの発声や指差しに目を合わせ、うなづき、こどもたちの言葉に耳を傾け、受け答えすることで、こどもたちはいつでも自分の言葉を聞いてもらえる安心感と自信を身に付け、感情が育ち、会話を楽しむようになります。絵本や歌に接する経験も言葉を使って表現する楽しさを感じさせてくれます。

言葉による伝え合いとコミュニケーション能力の成長は、こどもたちの心の育ちに大きくかかわっています。こどもたちの豊かな感情と心を育む「言葉による伝え合い」を楽しんでいきましょう。



心と言葉が育つ絵本

絵本に触れる経験は、言葉の成長だけではなく、こどもたちにとってたくさんのメリットがあると言われています。特に親子での読み聞かせは、触れ合いながら物語や絵を楽しむことで、こどもの感情を豊かにし、想像力を育み、コミュニケーション能力を向上させる効果があります。是非、親子で絵本を楽しみましょう。

〈0歳～1歳頃におすすめ〉

0歳の頃は、はっきりした色彩と大きな形しか見分けられません。目で追い、指差しできる大きなはっきりとした絵と色、繰り返しの心地良いリズムの言葉のある絵本がおすすめです。

～おすすめ絵本～

「もいもいどどここ」

作 市原 淳

〈2～3歳頃におすすめ〉

簡単なストーリーを理解して、物語の世界をイメージして楽しむことが出来ます。繰り返し同じ絵本を読みたがるのもこの時期です。イメージしやすい楽しい結末を楽しみましょう。

～おすすめ絵本～

「おおきなかぶ」

ロシアの昔話

〈4～5歳頃におすすめ〉

登場人物に自分を重ねたり、絵本の世界に没入したり、想像力を一杯働かせて、物語の中で遊ぶ年代です。図鑑や間違い探し、言葉遊びの絵本など、ゲーム性のある絵本も楽しめます。

自分で絵本を見るが増える時期ですが、触れ合いの時間として、読み聞かせを楽しみましょう。